

福島工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	文学「おくのほそ道」	
科目基礎情報							
科目番号	0105		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	講義・演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	建設環境工学科 (R2年度開講分まで)		対象学年		4		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	角川ソフィア文庫ビギナーズクラシックス『おくのほそ道 (全) 』						
担当教員	岩上 弘						
到達目標							
「おくのほそ道」の読解を通して芭蕉が目指したものは何かを読み取り、東日本大震災後の私たちの生き方を考える。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 (A)							
教育方法等							
概要		近世文学の代表作品である「おくのほそ道」を読み解き、芭蕉の世界観や人生観を読み取ることを通して生きることの意味を考える。東日本大震災の被災地ともゆかりのある歌枕の地をたどりながら、古典の今日的意義を考える。					
授業の進め方・方法							
注意点		本文の音読に心がけながら、発句の世界を味わい鑑賞すること。 定期試験の成績100%で評価する。60点以上を合格とする。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	江戸時代前期の時代状況		「おくのほそ道」の成立の背景		
		2週	「おくのほそ道」本文講読 1		江戸から室の八島		
		3週	「おくのほそ道」本文講読 2		日光から黒羽		
		4週	「おくのほそ道」本文講読 3		雲巖寺から白河の関		
		5週	「おくのほそ道」本文講読 4		須賀川から信夫の里		
		6週	「おくのほそ道」本文講読 5		飯塚の里から武隈の松		
		7週	「おくのほそ道」本文講読 6		宮城野から塩竈神社		
		8週	「おくのほそ道」本文講読 7		松島から石巻		
	4thQ	9週	「おくのほそ道」本文講読 8		平泉から尾花沢		
		10週	「おくのほそ道」本文講読 9		立石寺から出羽三山		
		11週	「おくのほそ道」本文講読 1 0		酒田から市振		
		12週	「おくのほそ道」本文講読 1 1		越中路から那谷		
		13週	「おくのほそ道」本文講読 1 2		山中から汐越の松		
		14週	「おくのほそ道」本文講読 1 3		天竜寺から大垣		
		15週	「おくのほそ道」の今日的意義		「おくのほそ道」の今日的意義		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	3		
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	3		
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	3		
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	3		
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3		
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3		
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	3		
				代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	3		
				古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	3		

			代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	3	
			教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	3	
			情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	
			他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	
			相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	
			社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0